科目ナンバリング	G-LAS00 80012 SJ47						
授業科目名<英訳>	教育デザイン基礎講座、実践授業・模擬授業 Basics of instructional design and teaching practicum for university education			担当者所属職名・氏名	国際高等教育院 特定教授 楠見　孝 国際高等教育院 特定教授 杉山　雅人 国際高等教育院 特定教授 廣野　由美子 教育学研究科 教授　西岡　加名恵 非常勤講師 松下　佳代		
群	大学院共通科目群			分野(分類)	社会適合	使用言語	日本語
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・ 通年集中	曜時限	集中 ガイダンス：5月14日 5限　オンライン 授業：6月4日、6月25日、6月26日　5限 実践授業・模擬授業：10月19日～12月18日　木2、木4、金2、金4　まとめの授業：2月5日　2限	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

近年、大学教員を目指す大学院生の教育力向上に対して社会からの要請が高まっており、特に大学教員採用の現場において、シラバス案の提出や模擬授業の実施を求められることが、一般的になってきている。これらのニーズに応えるためには、学生の主体的な学びを促し、理解を深めることのできる授業設計能力、自身が専門とする研究内容を初学者又は異分野を専門とする学生にも分かりやすく伝えることのできる授業実施・運営能力が不可欠である。本科目では、教育デザインに関する基礎的講義・演習に加え、学んだ内容を自ら実践する模擬授業・実践授業等の実施を通して、大学院生が将来のキャリアパスにおいて大学に職を得て十分な教育成果をあげるための基礎を養う。

[到達目標]

授業・科目のデザイン（授業案・シラバス案の作成等）に関する基礎的知識を身に付ける。実践授業や模擬授業等の実施を通して、実践的な授業運営能力およびコミュニケーション能力を身に付ける。

[授業計画と内容]

この授業は、(1)教育デザイン基礎講座、(2) 実践授業・模擬授業、（3）まとめ、で構成される。

（0）授業前　事前説明会　【4月9日・12:15～13:00】@国際高等教育院棟講義室32
授業の概要を説明し、受講を検討している学生の質問に答える。質問がある学生は参加すること。

（1）教育デザイン基礎講座
予備学習【4月～5月・オンデマンド学習】、ガイダンス【5月・対面】、講義及び演習【6月・オンライン（同時双方向型）】

＜予備学習＞
下記の講義・演習に参加するための予習（予備学習）として、4-5月のうちに次のオンデマンド教材（計約70分）を用いて自習しておくこと。
A) 大学教育の概要について―日本の大学教育の現状、大学教員の役割、教育職として求められる資質・能力などについて理解する。

教育デザイン基礎講座、実践授業・模擬授業(2)へ続く↓↓↓

B) 教育法・教授法について―教育指導や教材の作成・使用に係る方法論を学ぶとともに、教育現場で研究成果を扱う場合の著作権・知的財産権等の考え方を理解する。
C) 評価について―学習評価・成績評価、授業評価の方法や、その結果にもとづく指導や授業改善の方法を学ぶ。

＜ガイダンス＞【5月14日・木曜5限】@国際高等教育院棟演習室22
キャリアパスにおける教育能力の重要性を理解する。また、実践授業・模擬授業の実施方法およびデジタル・ポートフォリオの使用方法等について教員より説明を行う。対面での参加が難しい場合は、後日PandAにアップロードされる録画を視聴する。

＜第1回オンライン授業＞講義・演習：授業案・シラバス案の作成について【6月4日・木曜5限】
授業や科目（コース）のデザインの基礎を学ぶとともに、授業案・シラバス案の作成方法を学ぶ。
　課題：授業案・シラバス案を作成し、第2回までに提出する。
　　作成時に、実施する授業の内容や教材について指導教員に相談することが望ましい。

＜第2回オンライン授業＞授業・科目デザイン実習【6月25日・木曜5限、26日・金曜5限】
作成した授業案・シラバス案を発表し、これに基づく討議と相互評価をグループに分かれて行う。2日間の内容は同じであるため、いずれかに出席すること。
　課題：授業案・シラバス案を7月中旬までに修正し提出する。
　　その後、授業用スライドや配布物を作成し、9月初旬までに提出する。10月初旬に本科目の担当教員よりフィードバックを行うため、それを受けて授業本番までに授業資料を修正すること。

（2）実践授業・模擬授業
受講者は後期の木曜2限、木曜4限、金曜2限、金曜4限のうち、いずれか一つのコマを選択し、10月下旬月から12月にかけて行われる以下①②に計5回以上参加する必要がある。なお、都合が合わない場合を除き、グループメンバーが実施する授業には原則すべて参加すること。

・受講者は以下のいずれか一つを選択し、実施する。ただし、修士課程の学生は②の実施を原則とする。
　①実践授業＆フィードバック
　②シラバス紹介・模擬授業＆検討会

・自身が実施する上記①②の実践授業・模擬授業以外に、他の受講者が実施する実践授業・模擬授業を参観し、それぞれに対するフィードバック・ディスカッションを同一曜時限のグループメンバー（1グループは5-6名程度）で行い、授業改善・授業能力向上に繋げる。自身の授業の場合は「振り返りシート」を、他の受講者の授業の場合は「フィードバックシート」を授業後10日以内に提出する。

・授業を行っている様子と参観学生の様子を録画し、振り返りに活用する。

・実践授業・模擬授業には指導教員等も同席のうえ、実施することを基本とする。授業実施日を決定する際には、指導教員と調整を行うこと。

①実践授業＆フィードバック
全学共通科目又は 学部専門科目の入門的な内容を扱う科目のうち1回/15回を、授業担当教員に代わ

教育デザイン基礎講座、実践授業・模擬授業(3)へ続く↓↓↓

って実施する。実施に当たっては受講者自身が授業担当教員と調整のうえ、マッチングは教育能力向上コースサポートWGの教職員や大学院教育支援機構、当該学部教務委員会等と協力して行う。
実施を希望する科目が本科目の後期の実施時限（木曜2限、木曜4限、金曜2限、金曜4限）と異なっている場合は相談すること。
他の履修生や教育能力向上コースサポートWGの教職員が聴講し、後日、シラバス紹介（15回分）・授業評価・フィードバックを行う。このときのシラバスには、実践授業で行ったものと同様の内容を含む授業を取り込み、自分独自の科目名とシラバスを考える（理系科目の実践授業であった場合は文系向けの科目、理系であっても実践授業の領域を専門としない理系学生向けの科目、など）。

実践授業実施日とフィードバック実施日が異なるため、実践授業は録画し、閲覧できるようにすること。

②シラバス紹介・模擬授業＆検討会
実際に自分が教壇に立って授業を行うことを想定して作成したシラバス紹介（15回分）と、当該シラバスで想定される1回分の模擬授業を合わせて60分程度実施し、その後、30分程度検討会を行う。
他の履修生や教育能力向上コースサポートWGの教職員が聴講し、検討会において授業評価・フィードバックを行う。
模擬授業は、学生30-40人程度の中規模授業又は 学生100人程度の大規模授業のいずれかを予め想定し、いずれの場合も双方向・インタラクティブな授業となるよう考慮して準備を行う。

（3）まとめ（90分）【2月5日（金）2限】
本演習科目で得られた成果を同一曜時限のグループメンバーとまとめ、発表する。
教育能力向上コースサポートWGの教職員がフィードバックを行う。

年間スケジュール
4〜5月：説明会（任意参加）、ガイダンス、オンデマンド教材の受講
6月：第1回、第2回オンライン授業　シラバス・授業案の作成
7月：修正版シラバス・授業案の完成
8月：実践授業・模擬授業実施日の決定
9月：授業資料の作成
10月〜12月：実践授業・模擬授業の実施
2月：まとめの授業

[履修要件]

本科目は大学院教育支援機構が提供する「教育能力向上コース」を構成する科目である。
「教育能力向上コース」の一環として本科目を履修する場合は、本科目と並行して「大学教員になる人のための学生支援論」を受講する必要がある。また、e-learning「全学TA研修」及びe-learning「TAS研修」の受講も推奨する。ただし、(1)のオンデマンド教材の「大学教育の概要について」「教育法・教授法について」及び「評価について」は、本科目とe-learning「TAS研修」とで内容が重複するため、受講はいずれか1度でよい。
履修登録時点で、①実践授業＆フィードバックの実施を希望する科目担当教員との調整や、指導教員等の同席依頼は不要。
本科目の受講定員は20〜30名程度とし、定員超過する場合は「教育能力向上コース」履修者を優先する場合がある。

教育デザイン基礎講座、実践授業・模擬授業(4)へ続く↓↓↓

教育デザイン基礎講座、実践授業・模擬授業(4)

[成績評価の方法・観点]

デジタル・ポートフォリオに蓄積された、教育デザイン基礎講座の受講状況、実践授業・模擬授業の準備と実施状況、これらのフィードバックに基づき、教育能力向上コースサポートWGの教職員が評価を行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
各担当教員が授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

各活動の自己目標や達成度、活動記録の管理を義務付ける。各講義・演習で使用したワークシート、作成資料や、実践授業・模擬授業で使用した資料、コンテンツなどを成果資料としてデジタル・ポートフォリオに蓄積する。実践授業・模擬授業およびまとめの際には本科目の目標に照らして学び等を振り返り、「振り返りシート」をまとめるとともに、他の履修生や教育能力向上コースサポートWGの教職員が記載した「フィードバックシート」の内容から自身の強みや課題を認識し、今後の学習に活かす。なお、資料作成や課題提出あたっては、LMSも併用する。

[その他（オフィスアワー等）]

人間・環境学研究科の必修科目「教養教育実践」を履修する場合も、その履修をもって本科目の実践授業・模擬授業に代えることはできず、本科目内で実践を行うこと。

[主要授業科目（学部・学科名）]